

平成30年度 県立多賀高等学校 自己評価表

目指す学校像	(1) 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校		
	(2) 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校		
	(3) 特別活動を中心に、社会の形成に有為な人材となるための能力を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校		
昨年度の成果○と課題△	重点項目	重点目標	達成状況
○ 技能検定合格者増(英43→53, 数14→33) ○ 四大「一般」受検者増(117→139) ○ 国公立大「一般」合格者増(0→3) ○ 国公立大「一般」受検者増(5→12) △ 自学自習時間が著しく不足 △ 大学入試新テストへの対応	(1) 新大学入試に対応できる進学実力の錬成	① 家庭学習を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力を育むための授業の深化を図る。 ② 自己分析や大学・職業研究、課外や模試をより体系的に実施し、希望進路の着実な実現につなげる。	C
○ 皆勤率増(11.3%→17.5%) △ 規範意識が受動的な傾向	(2) 自治的能力と自律心の育成	③ HRや委員会における企画立案の取組等を積極的に設け、役割意識や責任感、能動的な規範意識を醸成する。	B
○ HRへの帰属意識が向上 ○ 23部中20部が県以上の出場・入選(H29) △ 学業進路でのSC利用増(7→22) △ 自治的活動が受動的な傾向 △ 関東以上出場件数減(15→8)	(3) 切磋琢磨の奨励と心身のケア	④ 部活動を奨励し、特技を伸長するとともに、スポーツ・文化・芸術を楽しむ心ややり遂げる力、連帯感等を育む。 ⑤ 保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期に対応する。 ⑥ 希望進路実現に備える学びの時間と課外活動の時間を適切に設計できるように指導する。 ⑦ 学校閉庁日の設定等により勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を進める。	C D

※部活動は全23部のうち県大会等があるのは21部

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題
教務	1 教育課程の着実な実施	拡充 ①各授業時間の確保を徹底(授業交換の徹底, 考査間の各授業実施率の均等化) ②総合・LHRを含めた年間計画を着実に実施	A	B ・支援システムのマニュアル充実
	2 新学習指導要領に向けた研究	拡充 ①新たな教育課程の研究を推進(教育課程検討委員会) ②授業改善や指導と評価の一体化に関する研修会を実施(授業力向上委員会等)	B	
	3 情報管理の徹底と効率化	継続 考査問題・答案や成績を含む個人情報の管理を徹底 (考査問題・答案の保管, 素点・成績等の取扱いについて毎回注意喚起)	A	
		新規 ①校務支援システムの本格導入に向けて研修会を実施 ②諸帳簿の効率的な記入・点検体制を構築	B	
生徒指導	1 問題行動の未然防止	継続 生徒との信頼関係の構築に重点を置いた, 各種生活指導を実践 (毎朝の昇降口挨拶指導, 年8回の容儀指導, 年18回の登下校時巡回指導等) 【指標】外部らの注意指摘件数20%減	A	B ・生徒・保護者の声へのより一層の傾聴 ・教育相談係と学年内係との連携の強化 ・内規見直しの継続
	2 要支援生徒への早期対応	継続 担任と学年教育相談係を中心に早期から保護者と密に連携 SC・SSW等を交えて迅速に組織的に対応	B	
	3 生徒や社会の実態に応じたルールを研究	新規 生活指導に関する学校内規の見直しについて検討 (成人年齢の引き下げ等の社会状況の変化に対応するため)	C	
進路指導	1 自学自習習慣の確立	新規 ①週末課題・小テストの奨励, ②進路メッセージ集活用による家庭学習記録 【指標】1学年平日1時間家庭学習者70%以上	D	C ・家庭学習について多くの生徒が不十分 →Classiの導入と面接の強化
	2 大学一般受験に対応する学力の錬成	継続 少人数の課外指導(始業前に希望者対象各教科週1回実施) 【指標】国公立大学10名以上合格	C	
	3 一人一人の進路希望の実現	継続 面談3回実施, 小論文指導等を夏期休業中外部講師により実施 【指標】進路希望実現率95%以上	C	
特別活動	1 生徒自ら企画立案する場の確保	新規 HR活動で5回・委員会活動・学校行事で各2回以上, 企画立案・運営の場を設定	B	D ・国体動員に係る日程調整 ・部活動の在り方に関する検討 ・諸活動の結果等の発信方法の検討
	2 部活動・委員会の精選	新規 ①原則全員部加入制・特色選抜を含め, 部活動の在り方を検証し精選 ②生徒会専門委員会についても精選	D	
	3 部活動指導体制の研究	新規 ①多様なニーズの生徒を受け入れて運営する部活動の在り方について研究 ②適切な休養を含め, 学校全体で部活動を持続できる指導体制について研究	D	
保健厚生	1 学校環境の美化・整備	継続 ペットボトル, 燃えるゴミ, 弁当ゴミの分別を徹底(保健厚生部で毎月点検を実施)	B	B ・ゴミ分別の指導の継続 ・校舎外安全点検当番制の確立 ・歯科検診率5割
	2 施設・設備の安全確保	継続 月1回, 保健厚生部による校舎外安全点検と点検簿記入を確実に実施	C	
	3 生徒の健康の保持増進	新規 学校での歯科検診未受診者に対し通院受診を養護教諭による面談指導により促す 【指標】通院受診率3割	A	

*評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度への課題
図書	図書館利用の促進	新規	修学旅行, 小論文対策, 「おすすめする本」等のコーナーを新設	B	B	・図書館利用の促進
		継続	県及び県北地区の図書委員研修会へ2回以上参加	C		
渉外	1 PTA活動の活性化	継続	研修事業に加えて学校行事への参加協力を呼びかけ, 新評議員12人を確保	B	A	・PTA活動の活性化
	2 保護者の学校への関心の増進	新規	松苑祭に向け, 保護者が参加できる企画を設営	A		
第一学年	1 学習習慣・生活習慣の確立	新規	①スコラ手帳や進路メッセージ集を活用し, 望ましい時間の使い方の定着を図る ②声掛けや面談等による信頼関係を基礎に, 容儀やルールを守る意識を育成	D	C	・スコラ手帳やポートフォリオの活用の徹底 ・学習面の強化
	2 一般受験による大学進学などの進路意識の醸成	新規	①朝の小テスト(25回)・休日課題(30回)により, 基礎学力の定着を図る ②自己適性分析(2回)と職業・学部研究(4回)を体系的に実施	C		
	3 望ましい集団活動の実践	新規	①LHRや行事へ向けた企画立案と話し合いのトレーニングを実施し定着を図る ②部活動や道徳を通して, 自律心や協調性, 責任感を育成	B		
第二学年	1 自学自習習慣の確立	新規	①国公立大等希望者対象に放課後少人数指導を実施(月4~6回) ②課題を提示し, 平日2時間以上の家庭学習を促す(課題提出点検により6割以上)	D	C	・進路・学習面の強化
	2 大学・職場探究の推進	拡充	自己適性分析(キャリアアンケート)1回と大学・職場研究(10回)により, 進路を絞り込ませる	C		
	3 ロールモデルとなるリーダーシップの確立	新規	①行事や委員会活動において自治的運営の手本を示せるよう助言 ②先輩として集団をリードする内発的規範意識を育成 【指標】容儀再々指導0	B		
第三学年	1 大学一般受験による合格者増	新規	スコラノート確認助言, 進路ホール利用促進 【指標】一般受験者60名, 国公立大学合格10名	C	B	・目標1の促進・達成
	2 自治的集団の完成	拡充	①HR活動を自発的・自治的に運営できるよう助言 ②行事や委員会活動において最高学年として集団をリードできるよう適切に助言	B		
	3 悩みに対する心のケア	新規	生徒面談を年3回以上実施し, 部活動や進路の悩みを傾聴し努力を励ます	B		
教科語	1 漢字・文法等基礎学力の定着	継続	①副教材を活用した小テスト等を週1回実施(全学年) ②検定試験の受検を推奨(受検者10%増)	B	C	・小テスト等の事後指導の工夫
	2 読解力・思考力の育成	継続	①授業において図書室を年に3回利用し, 読書量の増進を図る ②年に2回新聞記事を用いた見出し・感想等のを表現する活動を実践(1, 2年)	D		
	3 論理的能力・表現力の向上	拡充	①2年から, 年に3回, 小論文記述・添削指導を実施 ②年に1回スピーチの機会, 年に2回小論文を基にしたプレゼンの機会を設定(1, 2年)	B		

*評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度への課題	
教科	地歴・公民	1 基礎学力の定着	継続	ワークノートを全定期考査後に提出させる	B	B ・歴史総合、公共(主権者・消費者教育、道徳・特別活動との連携)の授業内容等の検討
		2 興味関心を高める授業展開	継続	①資料集や視聴覚・実物教材の活用により、時代背景がイメージしやすくする ②用語集などを積極的に活用し説明にエピソードを多く盛り込む	B	
		3 新学習指導要領への対応 ～特に歴史総合、公共	新規	①AL型授業、記述式問題・ループリック評価を研究 ②歴史総合、公共(主権者・消費者教育、道徳・特別活動との連携)を研究	B	
	数学	1 基礎学力の定着	新規	①週末課題や考査前課題を出す【指標】提出率100% ②遅進者に対して個別指導を実施	B	C ・家庭学習と基礎学力の定着方法の改善(成績下位者への指導方法を含む) ・数学検定受検者の増加
		2 思考力・判断力・表現力の育成	新規	AL型授業を半期に5回以上実施	C	
		3 数学検定受検奨励	新規	受検者対象の課外指導を实践 【指標】準2級以上40名以上合格	D	
	理科	1 アクティブラーニングへの改善	新規	①プリント教材を共有、②AL型授業を30%以上実施、③授業相互参観を3回実施	C	C ・AL型授業及び演示実験・生徒実験の増設など生徒の意欲を高める授業の推進
		2 体験的学習の推進	新規	生徒による実験を5回以上実施	D	
		3 基礎力・応用力の育成	新規	確認テスト、家庭学習課題、課外を充実 【指標】模試偏差値50以上を5名	B	
	保健体育	1 規律遵守の徹底	新規	始業時の整列やあいさつ、準備体操を主体的に実践させ、指導・評価・助言	B	B ・規律遵守の徹底の継続 ・授業の質の向上 ・保健:将来の生活につながる内容の検討
		2 基礎体力の向上	新規	運動学習場面60%を目標に、運動量を確保	A	
		3 わかる保健授業の展開	新規	授業力向上のための科内研究会を月に1度実施	C	
	芸術	1 創作の喜びを実感させる授業展開	継続	①個に応じたきめ細やかな指導を行い、学習意欲を高める ②作品を丁寧に創り上げる楽しさを感じさせる	A	B ・展示スペースについての工夫
		2 言語活動を取り入れた鑑賞教育の充実	継続	①展示スペースに作品を展示し、自作品を客観的に見る機会を提供 ②作品から感じ取ったことを言葉で表現する力を高める授業展開を充実	B	
	外国語	1 大学入試に対応できる英単語力の定着	拡充	①各学年小テストを年間20回以上実施 ②定期考査等にも出題し、反復学習させる	A	B ・英検受験者数の増加 ・英検2級以上取得に向けた1年時からの意識付け
2 英検取得の奨励		新規	各学年課外授業で文法・長文読解を重点的に取り扱う 3年時第1回英検までに2級取得者を5名以上取得できるようにする	B		
3 センター試験上位層の増大		新規	過去問等を積極的に活用し、読解力を向上させる 【指標】英語の得点率が7割超の者を10名以上	C		

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題		
教科	家庭	1 実践力の育成	新規	生徒に身近な内容を取り扱い、生活に還元できる教材・発問を工夫・開発 【指標】「家庭内もしくは私生活において学習内容を実践できた」者50%以上	C	B ・生徒が自身に置き換えて物事を考えられるような教材、発問の研究 ・一人一人の実技レベルの向上
		2 生活で直面する課題を解決できる力の育成	新規	生徒が主体的に考える活動をAL型の授業により実践(年3回) 【指標】「より充実した生活を営むために必要な能力が身についた」者70%以上	B	
		3 家庭科資格基準技術の修得	新規	キュウリの半月切り、トートバック製作を導入 【指標】調理、被服検定4級レベルの技能	B	
	情報	1 情報化社会で必要となる態度・知識・技能の定着	新規	知識、技能を活用したAL型授業を実施(年3回) 【指標】「情報化社会を生き抜く態度が身についた」者80%以上	B	B ・知識・技能の定着によるAL型授業研究の充実
		2 個別テーマ研究の実施	新規	テーマの理解、解決、自己の考えの形成、解決法の表現を個別に指導 【指標】「自己の考えを的確に表現できるようになった」者80%以上	B	
		3 主体的・協働的な学びの評価の確立	新規	評価方法を研究し、生徒にフィードバックする方法を研究 【指標】「自ら進んで他者と協力することができるようになった」者80%以上	B	
総合学習	1 2年:進路学習、平和学習の推進	継続	①進路指導部と連携し、自己分析と学部・職場研究の行事を体系的に実施 ②情報科・地歴公民科と連携し、沖縄修学旅行に向けた調べ学習をより充実	B	B ・進路学習の計画的な実施 ・探究活動の工夫	
	2 3年:進路学習の推進	継続	①教科・特別活動で得た知識・技能を進学・就職につなげるよう諸準備を推進 ②進路指導部と連携し、面接や小論文試験へ向けた事前準備を組織的に実施	B		
豊か な心	1 「道徳」の推進 ～行動する道徳の研究	拡充	①1学年職員全員及び管理職により効率的に展開する体制を構築 ②従来の体験的な行事を活かしたテーマ設定・実施形態を研究	B	B ・能動的な規範意識の育成を目指した、自律心の涵養のためのしかけづくり	
	2 「道徳プラス」の深化 ～公共性・市民性の育成	拡充	①考え・議論する対話をとおして他者の考え方を聴くことに重点を置き、自律心を涵養 ②社会的課題を取り上げることで、主権者教育の一助とする ※県推進校2年目	B		
いじめ 対応	1 いじめの未然防止・早期発見	継続	①一人一人が自己効力感を得られる出番を確保し、自信を育成 ②生徒・家庭への定期的な声掛け・電話により信頼関係を構築	B	B ・いじめ防止講話の早期実施(前期) ・SNS等の問題に対応できるスキルの研修 ・問題発生初期からの組織的対応の徹底	
	2 問題発生時の初期対応の徹底	継続	被害者の心のケアを最優先した組織的な対応を徹底	B		
	3 教員研修会の充実	新規	インターネット環境等(SNS等)に関する研修を実施	B		
その他	1 新学習指導要領への対応 ～カリキュラム・マネジメント	新規	①各教育活動のフローを体系化・見える化し、グランドデザインを構想 ②各教科において、プリント教材、ICT教材、考査問題の共有化を推進	D	D ・教材・問題等の共有化の推進 ・各部署における行事を含めた業務精選の推進	
	2 働き方改革への対応	新規	教科・特別活動、分掌部・学年、部活動において、業務精選のための見直しを実施	D		

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）